

# 佐倉のSLを見に行こう!

10月23日(日) 高崎川南公園

10:00~記念式典 11:00~SL開放

主催▶佐倉市蒸気機関車保存会・SL100周年実行委員会 (詳細:本紙2枚目裏)

後援▶佐倉市 ※雨天開催・荒天中止 ※公園には駐車場がありませんのでなるべく公共交通機関をご利用ください



## ドラゴンの階段 第42回 (連載エッセイ)

「あるのは繋げられてきた命だけ」 佐藤 洋祐

涼しくカラッとして、ぶらり散歩の気持ちいい初秋を期待していたのに、あれ、少し違うなあと感じるような寒さのこの頃。それでも、時折広がる青い空のうんと高いところに薄い雲が連続したうろこ模様をみせてくれたり、食卓には夏までとは違った味覚が並んだり、やはり私の一番好きな秋はちゃんと来てくれています。今年も、佐倉でも何年かぶりの秋祭りが催される様で、練習に打ち込むお囃子の音が各所に響き街に活気が感じられます。何代も続いてきた伝統ある行事の復活は誇らしく嬉しいものです。私もつい先日、和服を着付けてもらう機会があり、心が凜と立つと言いますが、やはり日本の伝統的な生活風習というのはいいものだ、と改めてその良さを見直しました。

同じ場に居合わせた若者もはじめて着物を身に着けた、というのでした。着物の下には詰襟のシャツ、そして足元はブーツを履いて、和洋折衷のカッコいいスタイルに感心してしまいい、思わず声をかけました。

「和洋のコラボカー、カッコいいですね!良くお似合いです。」「ありがとうございます!着付けの先生がコーディネートしてくださったので。よく『着物警察』の存在のことを聞いていたので、ちょっと敷居が高いというか、怖かったんですけど、良かった!」

着物警察(笑)。やはり伝統に則したものにはあることなのでしょう。経験の浅い人の、手におぼつかない行いや在り様をご覧になって、その方としては思いやりの心なのでしょう。注意をしたり、帯や着物を直そうとする方々の存在をそう呼ぶのだそうです。



奈良県十津川村の玉置神社にある神代杉。樹齢3500年とか

佐藤 洋祐(サトウ ヨウスケ)  
ジャズミュージシャン。サクソフォーン奏者としてグラミー賞を2度受賞。2015年末より佐倉市在住。2019年よりシンガーとしても活動を開始。

私のよりどころであるジャズという音楽も伝統にのっとった表現芸術のひとつです。実はジャズの世界にも同じような言葉があります。即興演奏を表現の核とするジャズ特有の、ミュージシャンが集まって皆で一緒に演奏し音のやりとりを楽しむ「セッション」という場があるのですが、私も世界中のいろいろな国でそのセッションに参加して楽しんでまいりましたが、どこにでも「セッションポリス」と呼ばれる、経験の少ない方に何かを言わずにおれない方、いらっしやいました。あ、ひょっとして、僕もどこかでそうなっていたりして! 伝統あるものをたしなむ時、どうしても、「こうでなくては」という形にとらわれてしまいがちなんです。

伝統芸術を学ぶ際に、形式は一つの助けになりますね。人間の一生は短いですが、しっかりと形式を確立するためには何代もの歴史が必要となります。形式を学ぶことで歴史を学び、歴史を創ってきた先人の存在を学ぶと、私たちは先人と己を比較して、結局、自分を良く学ぶことができます。すると、表現したい欲求、つまり創作意欲が強まり、また表現手段も奥深いものになります。ただ、形式は画一性も生んでしまいます。形式を学ぶことで、形式を学びさえすればそれで表現が完成したという錯覚に陥りますが、実はそれは形式をなぞっているだけで何も表現していないことがあります。そこで必ず表現者に訪れるのは、表現したい欲求と形式との衝突です。自由に表現したいソウルが、伝統や形式に縛られることに反発するので、これは表現を追求する者に必ずあらわれるジレンマです。

私が尊敬する現代の表現者はたくさんいますが、その中でも心感服せざるを得ないようなごく稀な方というのは、同じ時代を生きてこんなアーティストとも似ていませんが、では強烈に個性的で誰の影響も感じさせないのかというところではなく、彼らの先達から受け継いだであろう遺産をその作品、表現の中に、痛いほど強く感じさせます。伝統を学びつつ、自己を見つめる、ということは、自分が木々の一葉に過ぎないと自覚する行為に似ていると思います。そこにはプライドも、自分らしさも必要ありません。伝統に素直であることが、知らず知らずのうちに自分でこしらえてしまおう、「自分らしさ」の壁を突破することにつながると思っています。このような小さな「悟り」のように見えるものでさえ、それはひとつの概念に過ぎません。本当にあるのは、何代も繋げられてきた命だけです。

あ、そんな風に巡らせる思いに耽る私、頭でっかちになつて「セッションポリス」にならないように気をつけなくちゃ。

(2022年11月07日筆)